

廓鑑餘真

花街

土耐々女

上巻

鼻山人編

花街毒く女叙

男女の嬉楽ハ互のひ不臭體を拍

如く見識張学者なまの亦膚

完ちいそと包て筋肋骨をまろび心

憎やうふ見くく入ふ楚是山の眉代黛

也あぎやうふ蜀紅の衣自ひあけ



いかに

薫るも一たむぐいそ。也も香もあ

る。悟きつる。智識徒も。必ま

惑里不任。考もふ。良ともまされ

執の媚も化され。煩悩の犬も吼る

も。是非もまき。改身もあ。況れ

俗も扱のそく。悪と情のそく。下

毫^{あひ}著^{ぢぢく}有^まの^ま。密^{きぎ}手^ま不^ま縛^ま。是^{これ}が^ま。是^{これ}が^ま。

憂^{うい}も^ま難^{つら}面^まも^ま。能^よ堪^ま。思^{おも}ふ^ま。今^{いま}又^{また}

い^まの^まも^ま。予^よ先^ま。花^{はな}街^{まち}鑑^{かん}

と^ま。題^{だい}せ^まる^ま。小^{せう}冊^{さく}を^ま。著^あせ^ま。唯^{ただ}一^{いち}片^{ぺん}は^ま

玉^{たま}菊^{きく}が^ま。人^{じん}工^{こう}傳^{でん}を^ま。全^{ぜん}部^ぶの^ま

趣^{しゆ}意^い半^{はん}表^{ひょう}半^{はん}裏^りも^ま。今^{いま}又^{また}

何某なにがしとの餘よ身みのあらん事こと

頻あまみ責せめて其その續ぞく編へんとたあきんこと

望のぞみぬ事ことの好すお也なり慾よく情じやう不ふ

海うび初あ編はの足あぎるを補おぎなひ契ちぎ

花さ街と壽す々々女めを編あとらとも尚な

雪ゆのゆ霜しもをを加くへく折せ襪は襪は線せん

此^{こゝ}を^も取^とらる。破^{やぶ}家^か押^{おし}の^の後^{あと}
と云^いふ。と云^いふ。と云^いふ。と云^いふ。

文政九丙戌年

正月發兌

鼻山人誌

風流花月野

白水波八書

湖月抄





ぜんぶ まきめくろく
全部三卷目録

まきめ
上ノ巻ハ

ふう
風評話

まきめ
中ノ巻ハ
ものくさ
身上話

まきめ
下ノ巻ハ
うきよ
浮世話

うきよ
歌まよりの軍書ふも
ぐんしよ
よりのかま

しらべ
白鳥や各分列まきめ
しらべ
おきよ

ゆめ
まきめ
あまのあそ

あまのあそ

以上

餘麁

眞鑑

花

街壽

女上卷

江戸

鼻山人著

○風評をま

傳也ふの法門ふ入て楽世の体也

を親むる不声聞縁覚菩薩佛身の

四聖も眼糸不來運まて光明赫

非八と国土を照く昏夜迦陵頻伽の

其の 癡ちききくく人しん早ひををささぬぬすす金きん殿えん樓ろう閣かく

本ほん間まの床とこののちちままででももかからら不ふ紫し平へい云うん無む常じょう

速すみて歌うた舞ぶ音おん樂がくの持も賞しょう元げん生せい滅めつ法ぽう

界がいの五ご逆ぎやく十じゅう悪あくををああくくここののららすす揚やう子しふふ捨しゃ

のの念ねん云うん不ふのの子し練れん傍ぼうののああららぶぶ正せい覺がくの

位いととららぶぶとと拵ちゆうひひまますす除じよ陀た如にょ來らいも

けけおお淨じよ土ど不ふああららむむんんババああどどのの拜がいままるるるるののをを

海うみをを金きん々々んんややささらられればばはは土ど岡おか岡おか初しよのの以い來らい

極樂清りの同行梯の齒を換ぐごとく、
素見地身ぢみんの阿羅漢あらかんの丈と地色の
尊た未至まゐとぶまゑいの舍利せり弗ふまで
黄金くわんごんの膚くをえせとく功德くどく莊嚴そうげんのあり
かゝるを知らぬおれわ、天人てんじん阿脩羅あしゅら木
作さ礼らい而去みと佛ぶつ説せつの阿あ弥み陀だ經きやうあり
くさうれが人間の盛衰せいすい榮枯えいこの過去こ宿縁しゆくゑん
の心こころらうもる玉たまあうとまま後ごに迷悟めいごの果たまら

法ほつ下げ多たのの人ひとのの喜き怒ど哀あ樂らくもも皆みな平へいのの

妻つまのの約やく盡じんるるののとと道みち理りをを付つ移うつババ諦あきらめめららずず

つつもも元もと角かく浮う妻つまのの後あとああららぬぬ也やとと明あきららくく

二ふた河が白びやく道みち迷まつつもも虫むしのの仇あだ賢けん具ぐ悟ごららぬぬもも

ららもも花はなああららぬぬ泥どろのの流ながれれもも法ほつくくすす

町まちふふそそのの名なもも高たかきき萬まん寿じゆ屋やのの倡あは妓らん玉ぎよ菊ぎく

がが雛なご妓ぎととりりしし玉たま章ぢやうもも今いまのの位ゐををううんんでで

名なもも菊きくのの井いととああらら玉たまのの妻つまをを奉ほう侍しやくくくるる

らるも客の役りきやくをさままらの内幸うちこう様さま仕し業ぎふ

菊の井きくときれらのまりし海うみの中なか五ごのふ遠とほるも

内うち池いけのと通とほりの然しかもぞえくふくるされが玉たまききくが

禿かぶたりしふてふも今今いまの菊の井が雑妓ごとぬて

顔かほらまきてんもきく里さとのゆらく身みとらちのりお

夕ゆふまづ初はつ夜よの壽きもめどく瀧で軒はお

瓶びんきもも驩ぎる茶ちや法ほうもふりや

中ちゆうとざしきしんらま幕まくをらりよの集りあるま

中ちゆうとざしきしんらま幕まくをらりよの集りあるま

ちりひりぞち どりまゝの ところごとそ ありよりがらひ

頼入紳をる九巻て小調立の栄耀吟管より

客の風採の種くさるぐ 能るのし付ケる君の

るふ付ケても又出る玉 花が響の妙

花の井

幸さんへまやゆのひもほまゝあんまめくが玉菊の

三年が来イまヨ^幸おこニそうふぐうけのアあめひ

中しとも涙のたひご候 玉菊さんもなうらあひ

るりトららまゝがらみふ花の咲こ 倡蚊かの純

文さんガアノ通り入るふ昔々しこの 返る台信表

すいぎやう いと ぶしん らんぢやう とめ

水道 尻の井戸 普請も 廓中の人のもろと

堀 抜の太仕掛も 矢張り 玉菊さんの善菩提

の為 盆中の焼 筆管も 末世 末代けささとの

五んゆのん名の残る 舌を云ふ 功德の年忌吊と

炎泉の下でまんぎらん 無い人ともあらず

志あらず せ **菊** やんふとら までおぎら ま ま む 外 の 人

の子 遍 る ぶ え の 回 向 す 紀 文 さ ん の 口 ら ら

遍の お 念 仏 が 何 三 より あ わ ら ん の 身 で は な

嬉こころしこころららややららおおぎぎららススヤヤ入入
きり倡妓おららが

これこれ今今ののままのの井井ををアアノノ時時のの多多ををああ〜〜とと續続入入
ささ〜〜ととままりり

ちちややトト維維ででもも哭哭ぬぬめめののおおぎぎららススヤヤ入入ののままりり
華

ささ〜〜ととままりり 昔昔者者のの日日已已ふふ時時一一緒緒〜〜ととままりりのの時時

程程々々々々ののおおぎぎららススヤヤ入入ととままりり二二階階ささ〜〜ととままりり一一緒緒お

駈駈付付てて来来ててアアノノ時時アア愁愁れれぬぬ由由又又凄凄冷冷〜〜ととままりり

菊子子ののああ〜〜ととままりりああ〜〜ととままりりののおおぎぎららススヤヤ入入ととままりり

ろろももああ〜〜ととままりり来来〜〜ととままりり 華ののおおぎぎららススヤヤ入入ととままりり

持て居申す

トなき紙まじりのもの

菊

足まがらう

まのよさかのひ

つめ 清く入らぬ

く 出て盡す

たのよる事

ちん 小まの

ま 結合

るうらたんと

あり ありてある

あり なる

しあめらん

ぬ のら

よま 能

使の

ち おうらと

さ ち

ぐひの

ト まぐと

あ ぎ

のよ

あ 後の

あ 涙を

毒く

瘡が痛くいそとららぬものまのどくだヨトとらの

菊 アレサおまたあんまー トままのまをま秋あ母はるるのまままテ

くのりあたんのらちのま激まさぬも能よはまどまの

くまのまらうま係まるまらまきま勉まめまのまあまーまさまあまるま角ま

おはま疑まのま猪まあまてまけまるまのま活ま後まままもま定まえまりまくま

延ま毒まままらぬまのまらまうまとまんま付まキまらまままつまちまんままま

さぬままらまぐまくまくまくまヤまあまげまらまくま活ま紙ま如まめま

あまれまらまどまもま激まさまぬま活ま如ま又ま入ましまもまあまくま松ま田ま原ま

あまれまらまどまもま激まさまぬま活ま如ま又ま入ましまもまあまくま松ま田ま原ま

菊きくの井いききんも矢や張はり哭なきて吾われ々の候さう無な理り

でも福ふく入いらふ起おこるふとらふ場ばおまをりてあぢくの

身みのくしやきし里さとさんさんのこのまどお母ははの兄あに身み

をいんかうふけかうふ人ひとふまどひ笑わらいで垂たとらふん

おこおこ二に雞とり五ごふらふらさるさるてて菊きくととこのおとああして

入いりませトあふ涙なみだがいぢぢとまま幸さいさんお笑わらひ

あふまふのくしやからくもああくくああのああくくて

たがいのふとら母ははのこのをとおめい
いぢぢとあふまふのくしやからくもああくくて

玉たまの井い

これもおまじくがあふぢぢとあありが
今いまふぢぢとあありてああくくて

きんぎょのあけきり...
 モーティ
 きんぎょさん

おもしろい...
 ヨダト
 昔
 ヨダト

あつた...
 義
 ア

か...
 一
 別

甲斐文の...
 玉
 ヤ

そん...
 一人
 せん

ヨダト...
 菊
 萬
 万

ア...
 一粒
 新

ア...
 新

あまのせんヨ **菊** 整ちりしおひおひおひあひ。又あひ〜ひ持もち

裁きくがこはらひあんまぎいらら **妻** ハテぎあの色男の

さらばいちぎやや。伝あでき〜まあどの春すあやあ

そられぬぬころもちが 醉よの足ん能茶あを上げや

せ〜ト紙のあいら **玉** ちやら菊の井さんの

る〜ちぎいら ストらひあぐら丸茶あをまあわて **き** ちや 能り

自あひがららと終〜す **玉** さ〜ららの妻のさんの

は〜ららちやららの可きヨぬ **妻** ちやららの

おれお合電鏡の。蜺計もはよござ子玉あれさ
首矢のつゆておまじらるゝス菊の井さんの恍惚は
たもぢつらおまじらるゝイせん園まあアニ菊まの井さん
るまじゆおぬらるゝどはる方て恍惚おまておせうふらる
ぬんじらら。ぎふも仕形いがあるあ人おやアぬらる玉
ヲヤ可らおまじらるゝををちつせす。いんくゝるおれて
吾あんするのちやア。おまじらるゝイせん園まそれでも
るらちららる不恍惚おまられこトおのよアうなることア。いん

おぎょうやせんトまきの井が菊玉の井せんお捕らひ

あままなるません人のまりまやう。あまふま困まります

玉ま子ま、ま真まくまおま出まあまんますまあまホまニま客ま人まらまどま疑まります

ぶま心まのまらまあまらまるませんま要まコまイまッまアま大まままらまくまちまらまひ

女ま系まをまるまどま又まあまをま流まくまのまらまぬまままらまらま

らまらまトま将ま會まとませんまいまあまふまあままますま玉ま子まやませま

さんまもまさんまいま人まがまあまくまおまあまんまたまをま今まままあまアま

客ま人まのま方まがままま如ま戈まあまつまくま結まるま女まらまらまんまがま取ま

菊きくの井いきり人にあてあままななぬぬららんん子こ葉は

 ささんんがが我わ後ごををりりああららひひささるるすす。ああのの人に答こたへへてて

まままりりぬぬ まままりりぬぬ まままりりぬぬ まままりりぬぬ まままりりぬぬ まままりりぬぬ

 病やま天てん小こででのの出で令れいららちちらら志しあありり一一答こたへへてて

菊玉 き **のり** まままりりぬぬ まままりりぬぬ まままりりぬぬ まままりりぬぬ まままりりぬぬ

又またののちちおおちちををまままませせららううととままららくくままままららむむららむむししののままままららむむ

 ささららかかひひああららむむししののままままららむむししののままままららむむ

玉 まままりりぬぬ まままりりぬぬ まままりりぬぬ

るのをは^{たま}せん切^きッてちか^{ちか}ら^とな^{たの}す。冷^{ひや}く^{ひや}んで^{ひや}き^{ひや}入^{ひや}

ア^アのせ^アう^アぬ^ア **菊** ^アと^アか^アと^アち^アらん^アあ^アん^ア〜^アふ^アの^アの^ア

と^とづ^とそ^と ^と云^と傳^と ^とち^とや^とア^とぎ^との^とも^と恐^とろ^とふ^とる^とま^とじ^とら^とる^とす **き** ^きと^きん^きあ^きら

ち^ちら^ちう^ちの^ちこ^ちら^ち ^ちる^ち後^ち行^ちて^ちま^ち入^ちア^ちる^ちス^ちか^ちら^ち。ま^ちア^ち整^ちと^ちか^ちア^ちま^ち〜

あ^あん^あ。ま^まの^まさ^まん^まも^まら^まり^まそ^まか^ま **酔** ^酔を^酔ん^酔〜^酔ト^酔ら^酔い^酔た^酔ら^酔 ^{たん}ま^{たん}の^{たん}

海^海の^海引^海ち^海〜^海う^海り^海と^海ぬ^海下^海結^海を^海ち^海〜^海ろ^海〜^海ろ^海出^海る^海これ^海は^海じ^海の^海容^海の^海
西^西今^西の^西ま^西ま^西の^西ま^西を^西ち^西や^西金^西ら^西ら^西ま^西じ^西け^西て^西め^西ら^西〜^西ア^西の^西〜^西と^西口^西上^西の^西
海^海の^海中^海 ^あれ^あが^あら^あま^あじ^あく^あ ^あん^あぞ^あう^あ ^あ持^あせ^あて^あア^あリ^あこれ^あを^あた^あの^あむ^あの^ああ^あり^あ又^あ
ち^ちや^ち金^ち不^ちて^ちの^ちう^ちも^ちろ^ちの^ちは^ちひ^ちと^ちも^ちち^ちづ^ちく^ちな^ち城^ちが^ちろ^ちう^ちあ^ち〜^ちす^ちは^ち金^ち不^ちさ^ち知^ち〜

ま^まじ^まけ^まて^ま〜^まの^まへ^まん^まじ^まと **菊** ^く日^くる^くッ^くか^くら^く ^の春^の後^のけ^のけ^ので^のお^の出^の

破^{やぶ}おもふ首^{あたま}尾^びだらけ。出^いやくひおをを^{あつ}理^りま^ます

出^いうけて来^きのも今^{いま}と成^なく。仕^し舞^{まい}井^いツ^つ放^{はな}の身^みと

出^いサぬ^ぬ入^いりのも余^{あま}少^まくあ^あがぬ^ぬ甲^かう^うふ。又^{また}後^ごら^らぬ^ぬく^く中^{ちゆう}

こふ^の後^{あと}入^いり^りの^のあ^あれ^れも^もざ^ざら^らら^らト。大^{おほ}穢^せみ^み飲^のみ^み出^いう^うけ^けて^てふ

来^きこ^の甲^かう^うな^なめ^めの^の。能^よく^く押^おし^し入^いり^りぬ^ぬん^んる^る某^あが^が。得^あり^りぬ^ぬ

と^とても^も能^よき^きさん^{さん}の^の甲^かう^うふ^ふ。花^{はな}ぐ^ぐく^くん^んに^にお^おび^びい^いで^でま^まい^いぬ^ぬ

身^みが^がん^んで^で押^おし^しを^を強^{つよ}く^く是^{これ}ま^まで^で来^きこ^のの^のも^もま^まう^うて^て

親^{おや}仁^ぢの^の光^{ひかり}を^を筆^{ふで}お^おさ^さか^か。後^{あと}を^をら^らう^う。去^いち^ちの^の

の甘る目^{あつめ}ゆゑなる^{あつめ}あられて^{あつめ}まうらの^{あつめ}機動^{きどう}が^{あつめ}残^{あつめ}が
 かり^{あつめ}中の^{あつめ}虫^{あつめ}し^{あつめ}あや^{あつめ}ア。夜^{あつめ}次^{あつめ}血^{あつめ}でも^{あつめ}する^{あつめ}ア^{あつめ}し^{あつめ}ふ^{あつめ}。一
 け^{あつめ}え^{あつめ}る^{あつめ}ら^{あつめ}い^{あつめ}家^{あつめ}親^{あつめ}親^{あつめ}を^{あつめ}觸^{あつめ}あ^{あつめ}し^{あつめ}耳^{あつめ}小^{あつめ}た^{あつめ}この^{あつめ}入^{あつめ}る^{あつめ}得^{あつめ}動^{あつめ}商^{あつめ}
 の^{あつめ}ま^{あつめ}草^{あつめ}の^{あつめ}も^{あつめ}ゆ^{あつめ}又^{あつめ}繞^{あつめ}て^{あつめ}が^{あつめ}ゆ^{あつめ}づ^{あつめ}も^{あつめ}ま^{あつめ}の^{あつめ}海^{あつめ}ア^{あつめ}う^{あつめ}小^{あつめ}鼓^{あつめ}が
 能^{あつめ}と^{あつめ}る^{あつめ}を^{あつめ}経^{あつめ}つ^{あつめ}く^{あつめ}何^{あつめ}ニ^{あつめ}も^{あつめ}親^{あつめ}ふ^{あつめ}。楯^{あつめ}を^{あつめ}突^{あつめ}ま^{あつめ}も^{あつめ}ゆ^{あつめ}
 くれ^{あつめ}ど^{あつめ}が^{あつめ}残^{あつめ}を^{あつめ}な^{あつめ}す^{あつめ}て^{あつめ}も^{あつめ}又^{あつめ}を^{あつめ}上^{あつめ}の^{あつめ}能^{あつめ}と^{あつめ}ら^{あつめ}ふ^{あつめ}。人^{あつめ}の^{あつめ}は^{あつめ}し
 あ^{あつめ}ま^{あつめ}う^{あつめ}の^{あつめ}奇^{あつめ}廉^{あつめ}を^{あつめ}る^{あつめ}ゆ^{あつめ}め^{あつめ}。り^{あつめ}り^{あつめ}則^{あつめ}ぬ^{あつめ}人^{あつめ}を^{あつめ}知^{あつめ}つ^{あつめ}て^{あつめ}只
 右^{あつめ}れ^{あつめ}ど^{あつめ}。の^{あつめ}さ^{あつめ}る^{あつめ}親^{あつめ}の^{あつめ}後^{あつめ}を^{あつめ}も^{あつめ}じ^{あつめ}ら^{あつめ}れ^{あつめ}ず^{あつめ}。ア^{あつめ}の^{あつめ}代^{あつめ}の^{あつめ}

箒六めり折く高実らふコハア見もあんの
 契奴が。お袋とづるふぬく。おみおじの口まじ下
 押のふだ。たままさうあやア。舟の客も管せてまッて
 るのもあるさう。ほくくぐ。考てそアんれが。比もなはさかの
 不簡事。ト。まじ。菊。ちん肉。第の尾上。ト。やア
 押さるるせんが。舞く。あへ。宿のそ。尾。あし
 きふ。狗。あ。ち。あ。う。あ。う。ら。ホ。ニ。懸。線。で。あ。さ。ら。る。ん。ス。ぬ。
 の。お。中。ど。の。ふ。そ。尾。あ。る。り。も。後。で。ら。り。り。を。苦。さ。る。ふ。

あつ。どふ。較さし。せう。ト。業あら。ら。ら。程ちめ。り。く。
えんと。今。な。う。ら。無。理。山。入。較さし。と。ス。ト。そ。の。を。見。あ。や。ら
 押。の。ひ。い。ま。ぐ。又。お。目。か。る。ま。う。ら。ス。と。ど。う。か。も。こ。ら。う。れ。が
 流。ら。ら。ら。く。あ。う。い。せ。ん。矢。口。の。及。形。志。や。ら。押。ぎ
 可。も。せ。ん。が。夜よの。明あぬ。函あで。も。形から。く。あ。う。い。す
 候えんく。ぬ。の。身み迫づまつ。も。志しも。ぐ。昔くら。か。あ。り
ひよ。ん。と。の。走あら。う。で。あ。ら。ま。ぬ。中ちう。か。で。も。ぬ。じ
 たら。が。み。較さし。心。せ。う。ト。押。の。あ。ト。ら。細こく。ぬ。と。抽ひが

一を心こころおままんんすすトト續つづくく 来来あるるののままアアそそんんなな
ままのの弱よひひるるををここららずず不ふ縁えんとと時じ節せつののすす入いをを
ままつつががりり。たたゞゞささ入い苦く界がいののほほららひひ身みののここ入い於おッッ
ちちややアア。尚あままいいららみみぶぶめめををここららずずののどど。たたゞゞ入い内ないががゞゞまま
ららふふととのの是これままででささ入い我が悟まんをを仕しまますす。今いまトト如あ
ええ捨するる了りょう心しん間かんハハ。整ち立りつととののおおくくたたれれどど。何なにニニををままああのの
むむじじののままああららががののかかううややもも。候いききハハののららいいづづかか
ちちややアアぬぬがが。ははままととああいいししハハいいののてて。みみやや入いもも能あいい
ままつつががりり。たたゞゞささ入い苦く界がいののほほららひひ身みののここ入い於おッッ
ちちややアア。尚あままいいららみみぶぶめめををここららずずののどど。たたゞゞ入い内ないががゞゞまま
ららふふととのの是これままででささ入い我が悟まんをを仕しまますす。今いまトト如あ
ええ捨するる了りょう心しん間かんハハ。整ち立りつととののおおくくたたれれどど。何なにニニををままああのの
むむじじののままああららががののかかううややもも。候いききハハののららいいづづかか
ちちややアアぬぬがが。ははままととああいいししハハいいののてて。みみやや入いもも能あいい

あがらひ中じ。自發と素達々。音あやの。あひん

あひんある。陰の。道。女もま中く。ちや

玉のおひを。行。あひん。あひん

あひん。あひん。あひん。あひん

達々。あひん。あひん。あひん

の。あひん。あひん。あひん

あひん。あひん。あひん。あひん

あひん。あひん。あひん。あひん

菊あり

めのをとけ^{ちり}とぐらめま^{とがや}洋り^りみさ^ちちで^{あざり}
りす^なと^ら入^ま今^まの^りあ^り本^まを^り持^まこ^らた^らも^せ入^ま廓^の
今^あや^ら迫^つあ^らト^カイ^イす^めの^を多^ニも
この^かう^ふき^らる^ふあ^らい^まス^も次^もあ^らい^まス
り^は是^が又^まの^あや^今日^ま別^れ際^であ^らん^す
客^き人^にあ^らあ^らん^す内^い務^むも^のの^あら^んま
る^らあ^らい^まは^らち^であ^らい^まス^よん^がま^ら
は^らい^まあ^らい^まの^あら^んし^んし^ん

促ききささみぬぐけ。結くる肩かたむが窄ままうつてまの
どくあるものぐが押おのぼくらまあつくあるも令しと
りふちまちりあるさぬふえ教まされぬうままらふ
え捨するまふたのれとまればく程ほどまるまひの
身み迫づまる。勤えん毎づんふ勤えん毎づんも仕し援えんひて居ゐる。内うち院いんの
ひまも面めん目めあられバ内うちの獲と勤きんをささんさんひふ
当あ分のぶんうち居ゐるあつて居ゐる。家か材ざいひ分ぶん散さん出しゅ入にゅう
全ぜん浦ぽの株かぶ式しきも人ひと々々ふ後ごせせバ二に百ひゃく支し三さん百ひゃくあ

今さらきんひひふふのの目め論ろん見み塾じゆ工こうとともものの飛と燕えん至しめめ入いり

仕しららちちああれれととももハハテテははららるる時とき第だい一いちがが末まつののややアア百

万まん支しのの身み代だいででもも仕し方かたががぬぬ入い能ねああ。紀き文ぶんささららんんな

ととがが能ね子こ女によごごととれれららんんままややらら。此こゝ方かたアア解あはり

りりトト締おとめめ一いちままををんん法ほうををああててるるははららののりりご

ままるるももああののりりごご。植うゑちちんん根ねハハぬぬ入い中ちゆうののああららとと。考こう

ががららくく菊きくととんんななままままふふああんんななののんんすすもも時ときををああらら

ちち。故こととああののひひすすトト。ららつつををああららんんでで仕しああららししくくななののり

手 **園** 編 玉 菊 さんの 愁 ね づ ぶ 自 害 と

草 止 め て 出 づ ぬ の と ぬ り まで も 未 練 止

く。今 又 他 者 の 報 へ 志 ぬ 人 全 の 女 角 が 出 来

し ぬ 身 法 も づ づ づ 門 焼 へ 志 合 へ 修 不

ある 身 と 志 せ ぬ 己 己 己 己 の 時 ぬ り 人 の か ぬ づ づ づ

し ぬ づ ぬ 親 子 之 人 止 り ま 菊 志 づ づ 中 づ

もの 如 い 志 づ づ づ づ づ づ づ づ づ づ づ づ づ づ づ づ

妻 志 ぬ 止 り 止 り 止 り 止 り 止 り 今 の 苦 界 界 を 志 ぬ

中ちゆうにちゆう菊きく整ちゆうとちゆうのちゆうをちゆう中ちゆうにちゆうまちゆうすちゆう梅ばいのばい存ぞんにぞんまぞんすぞん

足あしをあし折おぎぎままるるススああのの強ちゆうをちゆうままるるんん不ふままのの也やぬぬららがが

りりををままるるししてて折おるるああんんすすををままるるななららぬぬ小せう出しゅ

ててああらられれ哭あき不ふああのの心しんをしん切きりりすすははままはは是これととららぬぬ

平ひら喜きええ親あやのの心しんをしん切きりりすすははままはは是これととららぬぬ

苦く界かいををすするるはは不ふ種しゆ心しんのの由ゆ方ほう破はででははままはは是これととららぬぬ

持もちままるるはは客きやくささぬぬももああるるううとと折おのの心しんをしん切きりりすすははままはは是これととららぬぬ

通とううのの心しんをしん切きりりすすははままはは是これととららぬぬ

まゝあるさかい^サ。化^ン毎^マ下^マ毎^マ上^マ毎^マ劣^マ毎^マ後^マあるがら。よ
 を合^アせて^ガ 毎^アむ^ビえ^ビく^ビさ^ビま^ビど^ビ末^マ長^クく^カち^ウり。ま^マ
 まゝと^トま^マる^ル中^ナふ^フん^ンの^ノさ^サち^チで^デお^オ終^ウひ^ヒや^ヤも。そ^ソう^ウん^ンを
 吾^コ子^コの^ノま^マの^ノ可^カ毛^モサ。は^ハげ^ゲま^マを^ヲ集^シめ^テお^オの^ノ中^ナら^ウと
 其^ソ方^ノの^ノア^ア符^フ不^フあ^アる^ルぞ^ゾや^ヤト。く^クま^マく^クら^ラひ^ヒと^トは^ハな^ナい^イし^シ
 唯^クき^キん^ンの^ノふ^フよう^ウ。百^ヒ石^シの^ノ味^ミつ^ツか^カこ^コん^ン粘^ネを。ち^チう^ウん^ンは
 又^マも^モく^ク膠^{カウ}の^ノア^ア毛^モえ^エん^ンが^ガ案^ア一^{イチ}あ^アん^ンま^マる^ルを^ヲ切^キ
 其^ソの^ノま^マで^デ客^キ人^ニの^ノ毒^{ドク}を^ヲま^マる^ルん^ンを^ヲく^クら^ラひ^ヒで^デあ^アつ^ツひ^ヒま^マと^トヨ^ヨと

あんど

安堵をかくまへしし **尊** なるから能くこの事

より

あつらひのた。整へてかへりまへり

れ

し **嬌** づるのサト **志** ちく **志** ちく **志** ちく

遠くのさへもよほし **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく

かじ **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく

か **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく

且入を **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく

も **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく

小 **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく

を **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく

と **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく

と **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく **志** ちく

吉六

入らうとる

ト さ あ ふ ま そ あ ぐ り ま き ら お 客 ど ヨ

鬼

ろ の ア イ

あ と き や い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

吉

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

客

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

吉

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

客

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

吉

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

客

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

あ ら い と よ ん あ ら い と よ ん

来じまはまぎまのままま。一向まかまのま。

ひらつてぬを客ま今ま出まてまんまそまうま先まのま何まとまらま入まるま。

免ま菊ま繆まさんまとまらまあまんますま客まひまめまんまらまらまらま。

免ま十まウまでまあまつままますま客まあまつま分まケま能ま倡ま妓ま五まあるま。

だまらまらま今まうまぬまままあまるままま先ま舞まのまおまるま人ま形までまのま持まてま。

ままあまてまままらまらま。サまアま一まツま政までまくまらまやまトまままはましまめまなままま子まままのま。

のん客ま一まツま吞まぬま入まらま客まコまらまちまアまままらまらまらまでま。

あまつまままのま客まそまんまあまらま何まをま答まがまらまらまらまらま。

おが。これも初會はつかいのまを思おもうあらじ。ハテはて園の

のびとらうあんのまほしめ。まじりたるうらと

ふらふらまよとまよとまよとまよとまよとまよと

まほまほあてわらもの。うららの

うららまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

花街壽々女上巻終





